

1955(昭和30)年、子どもの頃からの憧れであった教員に採用され、奈良市内の中学校で20年、教科体育科の学習とともに、課外の運動部活動(陸上競技)にも力を尽くしてきた。

当時はアジア初の東京オリンピック開催(1964)が内定し、スポーツは競技力の向上に国を挙げて取り組むが進められていた時代。その影響は学校の運動部活動にも波及し、過度な勝利至上主義の道を歩んでいた。オリンピックが終わって、国民はスポーツに大きな関心を寄せ、

学校運動部活動の 地域移行について (その2)

街の特性生かし育成を

特定の人だけのものと考えられてきたスポーツは、性、年齢を問わず広く普及するところとなった。私は20年間務めた学校勤務から県教育委員会に移動し、県内市町村に社会体育(現地域スポーツ)の

うになり、身近なスポーツに取り組み指導者の育成、組織づくりを進めるために、市町村に出向いてその取り組みに奔走、奈良県市町村社会体育連絡協議会、奈良県家庭婦人バレーボール協議会など

れて様々なトラブルを起すこともあった。地域に「スポーツクラブを育てる」とはどういうことか。2021年2回目の東京オリンピックによって、日本のスポーツは大きく変化した。地域にも様

普及を図る仕事に就いた。高齢者のゲートボール、家庭婦人のバレーボール(ママさんバレー)など、これまでスポーツに関心のなかった人たちが、健康づくりや余暇時間の活用

の設置に関わった。スポーツが学校・企業などでの活動しか分らない経験のない人々には、スポーツは勝敗だけが目的となり、大会や日頃の練習にも勝敗にこだわり、初心者、未熟者は脇に置か

々なスポーツクラブ(チーム)が誕生した。しかし、それは単一種目で少人数、年齢、性別に分けられて、組織には規則もなく目的が明確でないものが多い。数少ない施設も少数の一つのクラブに独

占され、共有して使用することへの配慮がない。参加者は自分だけスポーツができればよいと思っ

地域のネットワークを拡大し、地域の生活課題に取り組み、そして次の世代の子どもに、どんな地域を残すのかといった地域ビジョンを明確にすることが重要である。」(金沢大学清水紀宏教授・大阪教育大付属平野校舎松田正彦教諭)



練習前にリラックスする、ならスポーツクラブの仲間たち＝奈良市法蓮佐保山4のロートフィールド奈良

「スポーツの目標は、スポーツが目的に作られた組織であって、地域社会で活躍する他の組織と連携し、

載 第2、4土曜日掲載